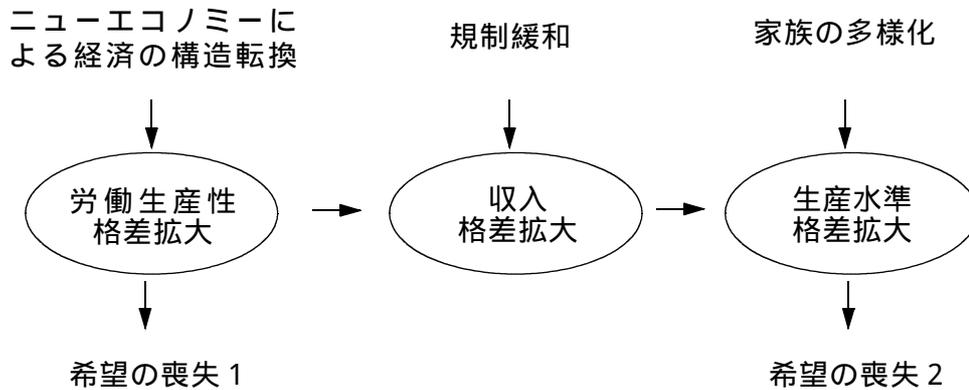


山田昌弘著「新平等社会 - 『希望格差』を超えて」を読む
- 労働生産性向上の意味を考える -

1. 1990年代後半以降の格差のメカニズム



P.145

2. 「生産性の低い職に就く人」への対応

社会的目標 生産性の低い職に就くことが固定化されることを避ける

個人的目標 いつかは、努力すれば、プライドをもてる仕事に就ける

手段 生産性の低い職に就く期間を短くする
生産性の低い職の中で徐々に昇進できる道をつくる
生産性の高い職に就くための教育訓練の機会と「報い」を保障する
生産性の低い職を少なくし、生産性の高い職を増やす

P.154

3. 生活の希望の再建

社会的目標 生活水準が低い世帯にいる状態が固定化されることを避ける
生活リスクによって生活水準が低くなることを阻止する

個人的目標 1) 努力すれば、いつかは、人並みの生活を送ることができる
2) 努力すれば、そこそこの生活水準が維持できる
3) 努力して子どもを育てれば、子どもが希望のもてる生活を送れる

手段 就職期、子育て期、高齢期における自立支援
子どもの教育訓練の保証
リスク社会に適合した社会保障制度の構築

P.161

4 .

新しい「希望」のある労働、生活の支援

社会的目標 従来とは質的に異なった価値ある生活を支援

個人的目標 社会的に評価される仕事、生活をする

手段 共生事業(新しい形の公共事業)の推進
新しい形でのコミュニティの推進

P.177

山田昌弘著「新平等社会 - 『希望格差』を超えて」
文芸春秋 2006年9月15日刊
- 2006年10月22日記 -